



説
林

幼稚園の立場と其務 (承前)

森岡常藏

其處でラインは如何なる様に幼稚園の立場を考へて居るかと言ふと、有名なラインは次のやうに幼稚園の立場に就て考へて、居るであります。

それを申す前に小學校の立場から言はねばならぬ、それから小學校との關係であります、小學校の話をするに就ても獨逸の小學校はドウ云ふ風になつて居るかと言ふ事を簡單に言ふ必要がある。

獨逸の小學校フォルクスシューレ譯すれば國民學校其の國民と云ふ意味は今では實際の意味に於て下層人民の意味である。國民學校へは中流以下の子供が行くのであります、中流以上の子供はドウ云ふ小學校の教育を受けるかと云ふと、それは中學校に附いて居る學校があつて、其の中學校に附屬して居る豫備學校、中學校の豫備學校である、それに直ぐに初めから這入るのである。故に小學校即ち國民學校に行くには別の途を執るのである。獨逸全体がさうではない、北獨逸がさうで南獨逸は三年間は國民學校で共同にやる、三年の後に中學校に行くは中學校、小學校で終るものは小學校で八年或は七年、獨逸は聯邦であるから制度が區々で七年で濟む様になつて居るもあり八年もあります、一番下が三年一緒に小學校に行つて一部は

中學校に行く、北獨逸は中學校に小學校程度の豫備學校があるからそれに初めから這入る。故に教育の場所が富豪の子供と貧民の子供は初めから差入る。

佛蘭西の初等小學校は日本の小學校に當る、其處へ這入る。財産の少いもの、子供が這入る。財産の有るものは又中學校に附屬の學校に這入る。英吉利でも殆んどそれに似て居る。英吉利は私立が澤山あつて一樣に言はれぬが、英吉利でもボードスクールと云ふは公立小學校で、それには財産の少いもの、子供が這入る、財産のある者はバブリックスクールなどに其子弟を教ります、然らば英吉利も佛蘭西も初めから初歩教育の途が差つて居る其の點に就てラインは大に説を爲して居るのであります、歐羅巴の社會は今日は社會問題に苦し

で居る時である。貧富の懸隔と云ふことを苦んで居る。社會の種々の方面に於て貧富の懸隔があつて、それが争ふて居るのであります。日本でも貧富があります、西洋の金持は日本の金持よりモウ一層大きくて、貧民は日本のより猶ほヒドい。一方は大廈高樓に住み、一方は蝸牛殼の様なわら屋に住んで居る。互に反目して相容れぬと云ふ事があつて、其の争びが政治家凡ての人の頭を惱ます問題になつて居る。故に貧富の衝突を避ける様にする計畫が種々の方面に行はれつゝある。小學校に關連した仕事としてもさういふ事をして居る。例へば貧民の子供が學校の引けた後で家へ歸ると両親が居らぬ、市街をころつさまわる。其處で悪習慣に段々染むことになりすから、少年の罪人が非常に殖えて居る、それも救はねばならぬと

云ふので學校がひけた後貧民子弟を學校の一室に集めて保護して善い話をきかせ又食物を無料で與へなどして午後七時頃迄置いて居る。一方から言

へば慈善又社會事業で佛蘭西にも獨逸にもある。

又貧民の子供は營養不十分である、さういふものを集めて夏休みの様な時に避暑する、海濱とか山間に子供を保養旁々連れて行くと云ふ事も小學校に關係した仕事としてやつて居る、或は慈善保養

の様な意味で旅行させる事もある、學校に風呂場を拵へて入れてやるとか、或は夏休みの間に學校を閉いて其處で下層人民の子供が日中暑い所に遊んで居るを憐みて其れを學校で手業をさす事をや

る。一方には慈善事業であるが社會的仕事としてさういふ事をやつて居るであります。で、今日の

歐羅巴の社會は社會問題に苦んで居る時である。

其の社會問題に苦んで居る時に貧富の子供を別に教育すると云ふことはドウであるか甚だ考ふべき點であつて、それは出來得るならば貧富の調和を計らねばならぬのである。處が子供の時から貧富の者が教育上別の道を通れば、子供の時から彼は金持とか貧乏とか云ふ私黨心を造るものである。

で初めから貧民の子供も金持の子供も同じ學校に入らざるが必要である。然らば今申した社會問題の上から言つても大變に助けになる。それから子供の時に交りてを結んで置けば後に至つて善い感情を及ぼして社會問題と云ふものを和げる助けになる、それをするには日本の様に貧富民一緒の小學校が必要であると云ふがラインの考へでありますところが一方から小學校を分けることを主張する。分けるを宜いとすれば第一は子供の思想界が

違ふ。貧民の子供の思想界と金持の子供の思想界が違ふ。凡て教育教授は子供に思想界を本として施すべきものであるが、金持の子供と貧民の子供と思想が違ふ。貧民の子供はさきに申した通り、「我は學校に居る」と云ふ簡單な事さへ十分に綴れぬ位である。金持の子供はさういふ事位は出來ぬことはない。想像力も違ふ。近い例が高等師範學校の附屬小學校の子供は作文が上手とかいうて人が驚きませんが教師の教へ方も良いのであらうが家庭の状況かこの方の發達を助けて居るので村落では望まれぬと云ふ事がある、併し理科の智識は甲に貧しく乙に富んで居る。兎も角思想界が違ふ。心の異つたものを一緒にして小學校教育を施すは不利益であると云ふが一方の主張である。又一方には金持の家庭からは貧民の子供と一緒に教

育されては困る。悪い風になると云ふ。此の二の點から共同教育を非難する。之を解決すれば金持の親からの苦情、詰まり貧民の子供と一緒に置く風儀が害せられると云ふことについて斯ういふ事は事實である。貧民の子供を富民の子供と比すれば富民の子供は優勢である。それで貧民の子供が富民の子供に悪感化を及ぼすよりは、貧民の子供に好い感化を及ぼす方が事實に於て多いのである。さういふ事の澤山の例を擧げて居る。さういふ事から言つても差支へない。又富民の人は下層社會の人に對して義務を有たねばならぬ。成るべく下層社會の爲めに盡くす所がなければならぬ。それで自分の子供を兎も角貧民の子供と一緒にして良い感化を與ふる様に一の學校に入れるが必要である。それから初めの思想界が違ふと云ふ問題

はこれは六ヶしい問題であつて、その事は否むべからざる事實である。それをドウしたらば宜いかと云ふことの上から幼稚園の立場が極まるのである。六歳まで抛つて置けば思想界が違ふ。故に國民幼稚園を立て、一般に三歳から富民も貧民も這入るやうにする。さうすれば其の頭の差ひがない様になる。それであるから學校の系統の中に入れて一番下の初階段として國民幼稚園を置き、此で三歳から六歳まで保育を受ければ記憶も言語も餘り差ひないから、其所で小學校へ進んで一緒に教授しても差支がなくなる。尤もラインは四年間は共同小學校として後に中學校へ行くものと分けやうと考へて居ります。其處で幼稚園の立場は上に述べた通りである。

要するに社會問題其他の點から共同小學校が必要

である。小學校だけでやつては思想界の差ひが出来るから國民幼稚園を附けて頭の差ひを等しくする様にすると云ふ様にラインが考へて居る。幼稚園の立ち場に對する學者の考は先づさういふものであらうと思ふ。シルレルの言ふよりもラインの言ふは一步進んで居る。シルレルは勞働者貧民の居る所に國立の幼稚園を立つべきものであると云ふのである。ラインはモツと大袈裟にして居るのである。私の知つて居る幼稚園の立場に關する議論としては先づそれ位にして置きます。

これから私は獨逸佛蘭西に於て見た事を申しまして幼稚園に如何なる事を爲して居るかと云ふことを二三申します。獨逸には公立の幼稚園は一もどさいませぬ、悉く私立である。殊に都會に見るばかりで村落には殆んどない。フレールベルは幼稚園

の元祖もとむそであり乍ら又議論ろんを充分じゅうぶん盡くして居るが、
 獨逸どいつには實際じつざい發達はつたつせぬ。私わたくしが見ても佛蘭西ふらんすの方が
 遙はるか盛さかんである。英吉利いんぎりには行つたけれども短日
 月げつで様子やうすを見ることが出来できませぬでした。亞米利
 加かは行ゆませぬから、何なんとも申まをされませぬ。伯林
 の幼稚園えいごえんで種々しゆくの研究けんきゆうをして居る、ベストロッツチ、
 フレーベルハウスと云ふ所ところで赤ん坊あかぼを預あづかる所も
 ある。教育けいよう及び家事かじの練習れんしゆして私立しりつ師範しはん學校がくの様
 なものもある、又寄宿またきしゆく舎しやもありませぬ、幼稚園えいごえんは二
 歳さい半はんから五歳さいの子供こどもを保育ほいくするのである。大体たいたい五
 歳さいと極きめたので五歳さい四五ヶ月げつまで五歳さいと見る、
 それが幼稚園えいごえん、それから中間組ちゅうかんぐみと云ふ置いて、
 居ゐる。五歳半さいはんから六歳さいまでの子供こどもを育てるのであ
 つて、其處そこで幼稚園えいごえんから小學校せうがくがうに行く移うつりがけの
 際さいを餘あまり差ちがひのない様やうにしやうとするのである。

幼稚園えいごえんは母はは的てきの愛あいが多い、小學校せうがくがうに行くゆと威げん格かくに
 なる。其そのかわりが一足そと飛びであるからと云ふので
 中間組ちゅうかんぐみと云ふを置いて居る。又そこに小學校せうがくがうの初
 等級ちとうきゆうを二組くみ置いて居る。それも今いま云ふた考かんがへで幼
 稚園えいごえんと小學校せうがくがうの聯絡れんらくを宜よろくしやうと云ふ考かんがへから
 起おこつて居るのである。其他その他に幼稚園えいごえんとして研究けんきゆう
 して居ることは種々しゆくあるが、著いしく感かんじたは中間組
 でありませぬ。後のちで佛蘭西ふらんすの事ことを云いひます時ときに御比
 較かくを願ねがひます。伯林べるりんで重おもなものはいふもの
 でありませぬ。
 佛蘭西ふらんすはドウ云ふ事ことを幼稚園えいごえんでやつて居ると云ふ
 に佛蘭西ふらんすの歴史れきしに依よりますと佛蘭西ふらんすで幼稚園えいごえんに相
 應おこする者ものをレコルマテルナルレコルマテルナル(母學校ぼがくがう)と云ひます
 が其起源そのきげんはフレーベル以前いぜんにあるやうであるがこ
 ゝに詳説せうせつする必要ひつたうを見ませぬ。其その母學校ぼがくがうでやつ

て居りますのは三歳から六歳までの子供を收容して居りまして、種々細い規程を言へば一校児童百五十人を越へぬとか、保姆は年齢二十五歳以上たるを要すると云ふ事があります。其の開校して居る間は午前六時頃から開く事もあるが大抵七時頃から夕方の七時まで開いて居る。其の間子供を預つて居ります。食事も學校でつくり或は辨當を持つて來るもある、父なり母が連れて歸る義務がある。休みもイースターの祭一週間と八月中二週間を除く他は休みはない。日曜日と八月二週間は下層の人民即ち労働者の子供が多いから、學校は休んでも労働者は労働するから、それに學校を閉ちて居ては子供が悪影響を受けるから休みを少くした所以である。時間の長いも其の譯であります。其上に六歳から上の児童級と云ふものがあ

るが、それは母學校と小學校の中間で幼稚園に附屬して居るのである。幼稚園に附屬して居るが全體に多い。小學校の下級を幼稚園の上に喰つ附けて置くのである其他巴里では十一ばかりの児童學校とでも譯ませうか、児童學校と云ふがあつてこれも五歳から八歳位の子供を保育をして居る。幼稚園の一番高いものと小學校の低いものとを結合して成り立つて居る母親風の愛育を受けて居た幼稚園から嚴格な小學校の教育を受ける間の調和が六ヶしい、其の移り際の爲めに之も設けて居るのである、先きに申した伯林のベスタロッツチーフレーベルハウスの中間組も其の通りで、幼稚園から小學校に行く間の育成に注意して居るのであります。

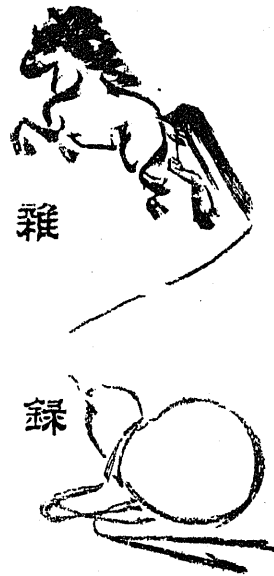
序でに言つて置きますが、佛蘭西は幼稚園が盛ん

で千八百九十九年に巴里ばかりでも幼稚園の数が百五十九あり。幼稚園生徒が二万九千五百三十九人ある。シルレルは佛蘭西を學ぶべしとして獨逸の欠點を擧げて居りますが、佛國都會の工業地方には幼稚園を必要として立て、居る。一万二千以上の所は強制的に立てる様になつて居る。國立で佛蘭西はドン／＼立て、居るのであります。之が獨逸にはない。能く人が獨逸の幼稚園は下層人民の子供を收容してやつて居ると云ふが、私の見たところではさういふ事はない。幼稚園は少い。佛蘭西は非常に完備して居る。然らば保育の仕方はドウであるかと云へばこれは獨逸の方が旨い。佛蘭西のを二三見ればれども保育の仕方に於ては感服しないのであります。私は澤山は見ぬがこゝの幼稚園を二三度參觀したがそれより或はマツイかと

も思ふ。佛蘭西は幼稚園の子供に圖書を書かせる繪を畫くは物を精密に觀察し美を感ずると云ふもので繪を畫かせるが、其行り方も教へ方としては詰まらぬ。干渉の仕方も佛蘭西はより多く干渉し獨逸は自然のである。さういふ事を言つても一々細かい事を言はねばならぬのであります。今は極く大体であります。

今日申したは極めて簡單な事であつて、幼稚園に對して申したことは幼稚園の位置は學者が如何に考へるか、幼稚園に如何なる事を務めて居るかといふことの考へを申したのであります。尙ほ附添へて言へばクリツペン即ち幼兒保護所或は孩兒保護所と云ひませうか、それは幼稚園に行くまでの子供、生れて間のない子供これは慈善事業、社會問題の一部として獨佛に行はれて居る、佛國で

は生れて二ヶ月以上の子供を預る、ペスタロッチ、フレベルハウスでは生れて六週間以上三歳になるまで預つて、二十片此方で言へば十錢で預かる、一週間ならば一マルク五十錢である人民……下層の人民がドウしてこの金を出すと言はるゝか知らぬが。向うで物價の比較上一日二十片一週一馬克は高い金額でない、籠に入れて置き泣く兒を揺してもりし又牛乳を飲ませオシメも換へてやる、少し大い子供には部屋で玩具を持たせて遊ばせて居る、佛蘭西でも獨逸でも同じにやつて居る、日本では斯ういふのを見ませぬが、或は斯ういふ事が必要であらうか貴方がたの御研究になつて居る所からドウ云ふものでありますか御参考に申して置きます。簡單な話で纏まらぬ話でありました。



鹽津みやげ (その三)

和歌子

●八月のある夕、をばさんが自身の單衣を疊んで居るのを見て、ふみ子(三年二ヶ月)は其自分のと違つて紐のついて居ないことに氣が付き、曰く「アタシモオキナツタラ紐ノツイテナイノキマスワ」と、をばさん「エーソードスチ、大キクナツタラヲバサンノミタヨーナキモノヲキナサイ」ふみ子又「ヲバサンガ小ソナツタラ紐ノツイタノキルノ